

としょかんぽう

第22号

「本館4層で君を待つ、 背番号900番台の本たち」

文学部 日本語日本文学科
教授 四重田陽美

我が家の本棚には、「日本十進分類法」という書名の、分厚い本があります。ずいぶん前に、大学で図書館司書の資格取得科目を受講して、この「日本十進分類法」に出会いました。それまでも、図書館の本の背中には、数字の書いた四角い紙が貼られているとは知っていましたし、この数字を貸し出しカードに書いて本を借りていましたから、数字が本を分類するものだと分かってはいましたが、何を意味するのかは考えたことがなかったので、数字の意味を習ったときはちょっと時めきました。

日本十進分類法は、図書分類法のひとつで、主題を1から9の数字を用いて分類し、どの区分にも属さない全般的なものは0に、そしてさらにそれらを0から9に細分化していく、というものです。番号の頭の1から9は、1哲学、2歴史、3社会科学、4自然科学、5技術、6産業、7芸術、8言語、9文学、という分類がされています。この最初の数字の意味だけでも知っていれば、自分の読みたい本が図書館のどのあたりに整理されているかは見当が付くというわけです。

今回は9の数字から始まる本の中から、美女にして女傑を一人、紹介します。『平家物語』に登場する、源義仲（よしなか）の妻、巴（ともえ）です。

巴が気づいたときにはもう、そばに義仲はいました。木曾の山中を飛びまわった幼少期も、一緒に食べ、一緒に眠り、成長しても彼はそばに居て、当然のように巴は義仲の妻になりました。髪長く色白く、見た人は全員、美女だと認める巴には、大の男でも使いこなせない強弓を引き、急な崖でも馬

を操り、敵に向かって一步も引かない胆力まで備わっていましたから、義仲が、平家を滅ぼして源氏の世にするために都へ行くぞ、と言った時も、自分も一緒に都に行き、死ぬまで義仲さまの側を離れないと巴は決めていたのです。

平家は都を離れ、治安の乱れた闇のような都に、東から輝かしく現れた義仲を都の人は「朝日将軍」と呼んで歓待しました。でも、栄光は長く続かず、義仲は、今や鎌倉から来た源範頼（のりより）・義経（よしつね）軍に追われる身です。木曾へ帰ろう。都に入った時には五万騎と言われた義仲軍は、どんどん減り、最後はたった五騎になりました。

五騎になっても、巴は義仲の側に居ました。ところが義仲はこういうのです。「おのれは、とうとう（早く早く）女なれば（女だから）いづちへも行け」。

もちろん巴は納得できません。そんな巴に、義仲はさらに言葉を重ねます。「木曾殿の最後のいくさに女を具せられたりけりなど、言はれむ事もしかるべからず」「しかるべからず」とは「ふさわしくない」という意味です。死に際に女をそばに置くことは武将としてふさわしくないなどと、義仲が言うなんて。それが、ただただ巴を生かしてやりたいと思う気持ちから出た言葉だと、分かっているにもかかわらず、嫌だイヤだと首を横に振り続けてきた巴は、最後にきっぱりと諦め、義仲に自分の勇ましい姿を覚えておいてほしくて、敵の群れに単身、馬で駆け入るのでした。

巴はどうなったのでしょうか。この先は是非図書館で、『平家物語』巻第九「木曾最期」を読んでください。古典作品には現代語訳が付いている本もあります。内容がわからない時はそれに頼ればいいのです。大切なのは、原文で、800年も前に生きた人と繋がる喜びを知ることです。

9で始まる本の棚には、1000年の時を超えて、あなたが手に取ってくれるのを待つ物語があります。読んで得た感動や発見を、身近な人と語り合う喜びも、何物にも代えがたいものですよ。

日文「図書館テーマパーク化」計画

文学部 日本語日本文学科 准教授 稲垣裕史



図書館を「テーマパーク」にすれば、利用者は、楽しみながらリテラシーを獲得できるかもしれません。図書館を利用してもらうには、興味・関心を引くための「工夫」が必要です。その工夫として、本学の図書館は、定期的に「謎解きイベント」を企画・開催しています。利用者は、体験型の謎解きアトラクション、通称「脱出ゲーム」を参考に作られたイベントを通じて、図書館利用に必要な知識を、楽しみながら身に付けることができます。

図書館主催のイベントに啓発を受け、日本語日本文学科（日文学科）は、図書館員の協力のもと、2つの「図書館ゲーム」を教材として開発しました。第1の「図書検索ゲーム」は、3つの「ミッション」をクリアすることで、図書検索に必要な OPAC（図書検索システム）の使用法、図書の背ラベルにある数字と記号を読み解くリテラシーを習得します。第2の「図書館に眠るお宝を探せ！」では、3つの「謎」を解き明かすことで、本学図書館を自力でブラウジング（探索）できるようになります。

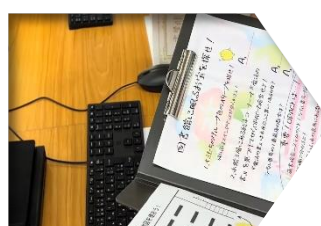
日文学科の開発した2つの「図書館ゲーム」は、実用的な知識を、楽しみながら身に付ける工夫が凝らされています。「検索ゲーム」は、筆者が開発しました。ミッションをクリアするごとに、報酬として「ボス」からスタンプが押印され、最終報酬は「国宝・志賀島金印」です。「お宝を探せ！」は、本学科・杉本香ゼミ（日本語教育学）2023年度4年生が開発しました。3つの謎を解き明かすと、「失われた宝物」である、本学「貴重図書」をゲット（閲覧）することができます。

2つのゲームは、2023年度、日文の初年次教育、およびオープン・キャンパス（O.C.）で実践されました。「検索ゲーム」は、筆者主導のもと、1年生必修科目「研究基礎A」とO.C.において計3回、「お宝を探せ！」は、杉本ゼミ4年生の主導のもと、O.C.において計2回、ともに図書館の全面的な協力を得て、成功裏に終わることができました。O.C.では、来場した高校生の保護者の方々もゲームに参加し、本学図書館の「47万冊の本の海」に、どっぷりと浸って頂きました。

図書館の協力のもとに開発された「図書館ゲーム」の楽しさと学習効果を、日文学科の外にも伝えたいと考えています。確かな情報は、図書館に埋もれています。本学の強力なリソース（資源）である図書館の情報を、学部を問わず、全ての学生が、適切に使いこなす日が来ますように。



01 探索開始！



02 秘宝地図！



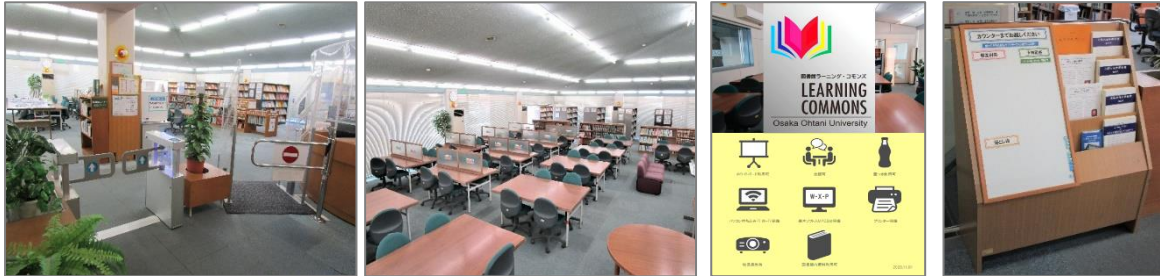
03 謎を解け！



04 お宝発見！

自分でつくる図書館活用法

2023年度は図書館内が大きく変わりました。明るい空間でゆったりと過ごせるように雑誌架や本館閲覧室の機の配置が変わり、パソコンや入退館ゲートも新しくなっています。お知らせ用の掲示板もすっきりし、ラーニングcommonsにはUSBポート付きのコンセントが増えました。



図書館はみなさんの学びや研究を支える施設ですが、それだけの場所ではありません。

みなさんの財産である資料を守り、利用してもらうためのルールはありますが、『ゆっくり時を過ごす』『考え事をする』『座るだけ』など“居場所”としての活用方法もあります。

ふと思いついたら図書館を巡ってみてください。大きな図書館の中でお気に入りの場所が見つかるかもしれませんし、新しい興味や発見があるかもしれません。1周まわるだけでちょっとした運動にもなります。さまざまなテーマで展示もしています。

図書館でいる間はSNSデトックスタイムにする、手帳を書く時間にするなど、自分らしい図書館の使い方を実践してもいいかもしれません。図書館を活用して毎日を充実させてみませんか。



司書課程の学生による

第11回ビブリオバトル開催

10月19日図書館別館閲覧室にて開催されました。

今回は6名のバトルーが登壇し、「本を通じて考え方が変わった」「将来に向けて背中を押してもらった」など、自身の経験に基づいて語られる熱い語りで観衆を魅了していました。

ディスカッションタイムでは、「次にこの本を読むならいつか」など発表をさらに深堀するような質問が飛び出し、発表者、観戦者ともに有意義な時間を過ごせたのではないかと思います。



◀発表の様子



チャンプ本に選ばれたのは…

『死刑にいたる病』 榎木理宇著 (913.6/K)

Colorful Library

今年度も様々な展示やイベントを行いました。

2023年度展示・イベント（一部抜粋）

4月
◆展示
『オリーブちゃんからの挑戦状』

6月
◆ミニ展示
『論文・レポートの書き方の本』

7~8月
◆準貴重図書展示
『百人一首』

9月
◆展示
『100周年☆23』



10月
◆イベント
『第11回ビブリオバトル』

11月
◆準貴重書展示
『大和本草』

12月
◆司書課程テーマ展示

1月
◆ホール展示
『みんなで登る 推し本登山ツアー』



知って、守ろう「著作権」

本、音楽、絵画など創作されたものには、それを作った人（会社）＝著作者に「著作権」があり法律によって守られています。たとえ自分が買った教科書や問題集でもコピーして友人たちと共有する、本に載っている画像や写真をスキャンしたり撮影したりしてSNSに投稿するなど、これらの行為は「著作権」を侵害することになり処罰の対象になることもあります。

図書館でも本をコピーする場合には1人1部、1冊の半分以下などのルールがあります。電子書籍もダウンロードできるページ数が決まっており、ルールを守れないときは大学全体が利用停止となる場合もあります。

著作者にとって「著作権」は大切な権利です。その権利を侵さないよう利用の範囲を守って使用しましょう。

（著作権法第30条・31条による）



『地球の歩き方』の日本版シリーズがはいりました

図書館では、これまで購入していたガイドブックから『地球の歩き方 J』シリーズに変更しました。

このシリーズは海外旅行でガイドマップを探すときに必ずといっていいほど目にする『地球の歩き方』の日本国内版です。観光案内のほかに、お国自慢、歴史と文化、旅の準備などさまざまな情報が掲載されていて、日本についてたくさんの知識も得られる読み応えのある1冊です。

じっくり読んでみませんか。

所在：カウンター前書架 貸出期間：3日間

受贈資料リスト(学内)受入順(2023年4月～2023年12月)

書名	編著者	発行者	請求記号	寄贈者(敬称略)
生涯発達と生涯学習	堀薫夫著	ミネルヴァ書房	379/H	木下みゆき 他6冊
税金で買った本	ずいの原作；系山岡漫画	講談社	013.1/Z/1	中道厚子 他9冊
自分で自分を不幸にしない：「性的虐待」を受けた女性の語りから	井上寿美, 笹倉千佳弘[共]著	生活書院	367.6/I	井上寿美
埴輪の分類と編年：埴輪検討会シンポジウム2022資料集	埴輪検討会事務局編	埴輪検討会	210.32/H	犬木努
近世前期仏書の研究	木村迪子著	新典社	910.25/K	木村迪子 他1冊
万葉研究における学際的共有化を推進するための方法論の構築	竹本晃編	大阪大谷大学	911.12/M	志学会 他8冊
ひなた弁当	山本甲士著	小学館	913.6/Y	藤井兼芳 他20冊
『ブッデンブローク家の人々』：『悲劇の誕生』のパロディとして	別府陽子著	鳥影社	943.7/M	別府陽子
近世の国家・社会と幕府広域役	飯沼雅行著	清文堂出版	210.5/I	飯沼雅行
京洛の学風	礪波護著	中央公論新社	222.004/T	礪波護 他7冊

上記資料のほか、学内外より296冊の資料を受贈いたしました。心よりお礼申し上げます。

としょかんぼう 22号
2024年4月1日発行
大阪大谷大学図書館

〒584-8540
大阪府富田林市錦織北3丁目11-1
TEL0721-24-1015 FAX0721-24-1176